



## 私の週末

先週の学級日誌の続き。

▼6月16日(金) ●●

- 1 数学 指数の方程式 \*眠かった
- 2 コミュ英 Lesson5 Part3 \*動物を大事にしよう
- 3 現代文 ファンタジー・ワールドの誕生 \*ファンタジー・ワールド＝「未開文化」(?)
- 4～5 芸術 お絵かき \*うまく描けない
- 6 体育 プール \*寒し! 疲れる、水が鼻に入る
- 7 英表 自習(先生が休み) \*こぎん刺しが捗る

○朝、雨が降っていて期待したが、結局プールがあったのが残念すぎた。でも、その後の自習の時間で完全復活した(つまり自習しなかった)。

\*

先週は学級日誌の記載が多くて、1枚の紙面にはおさまらなかつた。こういうのを「嬉しい悲鳴」というのであるから、ぜひ、今後も日直の諸君は、たくさんの記録を残すべく邁進していただきたい。

ところで、私は金曜日の午後から母方の祖母の五十回忌に出席するため、はるばる北海道の小樽まで出かけてきた。おと一さん、おか一さんに聞いてみれば分かると思うが、五十回忌というのはかなりマレである。故人が若くして亡くなったということと、その子どもたちが長生きしているということが重なると、こういうこともあるのである。私の祖母は66歳で亡くなったそうなので、前者の条件には必ずしも当てはまらないが、今回の喪主である私のおじさん(私の母の兄)は94歳だから、まあ、後者の条件には当てはまるのかも知れない。

この喪主のおじさんをはじめ、母の兄弟は4人いて、母以外はみな道内で暮らしているが、それぞれに子どもがおり、それが我々世代、つまり、今回の回忌を迎えた祖母にとっては孫たちの世代ということになって、私の他に8名いる。さすがに私たち世代は本土で暮らしている者の方が多く、本土6名+道内3名であるが、なかなか会えないとはいうものの、賀状を交換したり、季節季節にはそれぞれの土地の特産物を届け合ったりして、仲良く交流を続けている。

さらに、我々世代にも子どもがいて、私には3人の孫までいるわけだから、総勢で集まるとかなりの数になるし、子ども世代は子ども世代で、互いに連絡をとりあっているようである。今回集まったのは私たち世代までで、私たちの子ども世代は参加していないが、それでもこれだけの家族が交流を続けていて、何かの時にはこのように集合できるということを、私はけっこう誇りに思っている。

\*

帰りがけ、札幌に出て夫婦で北海道大学を散策してきた。北大はポプラ並木が有名なことから分かるように、構内が広くて美しい。新緑の季節を迎え、湿気などほとんど感じられない気持ちのいいキャンパスをのんびり歩いては、写真を撮ったり、生協でお弁当を買って池のほとりで食べたり、インフォメーションセンターでお土産を買ったりして、短時間ながら楽しい時間を過ごしてきた。冬の厳しさには辟易だが、だからこそ、この季節は光り輝いているのであろう。どうです北大、なかなかイイですよ～。